

人文学部国際交流委員会は、10 日午後、図書館 3 階のライブラリーホールで、米協定校ペンシルベニア州立大（PSU）との 9 月の交流事業に参加した人文学部、教育学部生の 8 人による報告会を開催した。学部生のほか PSU からの留学生など約 30 人が参加、盛況のうちに、予定を約 30 分延長して終了した。

冒頭、5 月と 9 月に両大学間で実施され、人文学部学務の大曾根純が撮影・編集した交流会のビデオ（簡易版）を約 10 分間上映し、鑑賞後に報告会へ移行した。



口火は、副団長で人文学部 3 年の磯部堯晶が切った。交流会の枠組みについて説明した磯部は、キャンパス内の掲示を見て参加を決意、複数回の説明会に出て、不安が解消されたと PR。出発直前の結団式で参加メンバーとの結束が強化され、研修への意欲も湧いたと語った。

次いで、司会を担当した人文 3 年の山本宗宏が高い教育水準や広大な敷地などのキャンパスを持つ PSU の概要を紹介、講義にも出席し、勉学に臨む熱心な態度に感銘を受けたと強調。週末訪れた

旧都フィラデルフィア訪問については、研修担当の人文 1 年の大曾根萌映が、パワーポイントで地図などを示しながら独立当時の議会など歴史的建造物が並ぶ独立記念公園などについて説明した。

共同司会を担当した人文 3 年の栗田佳奈は、2 週間の滞在で触れた米国の食文化について、ワッフル、サンドイッチ、ハンバーガー、野菜サラダなどの写真を示しながら、①常に野菜が少ない②量がたっぷり③味が濃く、こってりしたものが多しいなどの発見を語った。



帰国前に 4 日間滞在したニューヨーク研修については、人文 2 年の西江隆博が、楽しかったマンハッタンの散策や自由の女神訪問などについての秘策を指南。教育学部 3 年の菊池悠馬は、「相手が使っているフレーズや表現の模倣」、「発音は気にしない」などの英語コミュニケーションのノウハウやプレゼンテーションのコツ、研修のメリットなどについて伝授した。

最後は、講義中を抜け出してきた団長の教育学部 3 年の山田夏望。「英語というコミュニケーションのツールを使い、等身大の自分をさらけ出し夢中で渡り合おうとした結果、度胸と自信を手に入れ、アメリカにおいてかけがえのない友達との絆を築くことができた」「大変得るものの多い刺激的な研修となった」と締めくくった。

PSU 出身のサラさんも報告会に出席し「5 月の研修で知り合いになった茨大生と再会できて、とても嬉しかった」「今日本語を一生懸命勉強している」との茨大留学の現状を日本語と英語を交えて話してくれた。（敬称略）



（終）